

PLAY
WITH
ART!



RINTARO
HARA
+
YU
HARA



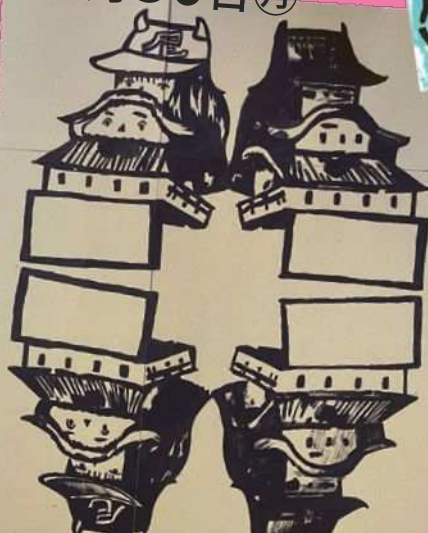
プレイルームで
美術は開き、
尼の子は時を明くる。

原倫太郎+原游



2026年
10月31日(土) -
11月30日(月)

[会場]
尼崎開明rooms
(尼崎市開明庁舎内)
[開館時間]
午前10時~午後5時
(土・日・祝日は午後6時まで)
会期中無休



尼崎開明rooms 第6回展覧会

プレイルームで

美術は開き、

尼の子は時を明くる。

原倫太郎＋原游

2026年10月31日(土)～11月30日(月)

会場：尼崎開明rooms (尼崎開明庁舎内)

開館時間：午前10時～午後5時

(土・日・祝日は午後6時まで)

会期中無休

主催：一般社団法人あまがさき観光局



原倫太郎＋原游 Rintaro Hara+Yu Hara

キネティックなインスタレーションを手がける原倫太郎と、油絵やイラストを中心とした絵画表現を展開する原游によるアートユニット。個々の活動に加え、2015年より本格的にユニット活動を開始し、卓球場、水遊び、巨大双六場、巨大灯籠など、子どもと大人が一緒に遊べる「プレイグラウンド」をテーマにした体験型作品を展開している。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、瀬戸内国際芸術祭、「北アルプス国際芸術祭」に継続して参加。近年の主な展覧会に、2023年つくりかけラボ「RE 幼年期ディスカバリー」(千葉市美術館／千葉)、「六本木アートナイト」(東京)、「水の町プロムナード」(象の鼻パーク／神奈川)、2025年個展「バベルが見る夢」(太田市美術館・図書館／群馬)、2026年「まるごとTAD美術館＋原倫太郎＋原游《アートリバー双六》」(富山県美術館／富山)、「小旅人・大旅程」(桃園市児童美術館／桃園／台湾)、個展「夏の子は、ハチのように。都市の子は、球のように!」(渋谷ヒカリエ8／東京)「下呂 Art Discovery 2026」(岐阜)など。2008年、絵本『匂いがかがれるかぐや姫～日本昔話Remix～』が文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門において奨励賞を受賞。

<表面写真>中段：《エアホッケー (デ・スタイル)》提供：富山県美術館、下段：《妻有双六》Photo: Keizo Kioku

開明roomsで、第6回目の展覧会として、原倫太郎＋原游のアートユニットによる「プレイルームで美術は開き、尼の子は時を明くる。」を開催します。本展はこれまで全国各地の芸術祭などで活躍しているお二人が、インスタレーションや絵画、立体などアートの視点で、タイトル通り“開明rooms”をイメージした空間を作ります。展開する作品での「体験」を通して、美術の新たな楽しさや尼崎の魅力を感じることができる、子どもから大人まで誰でも楽しめる展覧会です。みんなで開明roomsに遊びに来てください!



参考作品



《PING-PONG PAN》提供：富山県美術館



《森の卓球場》

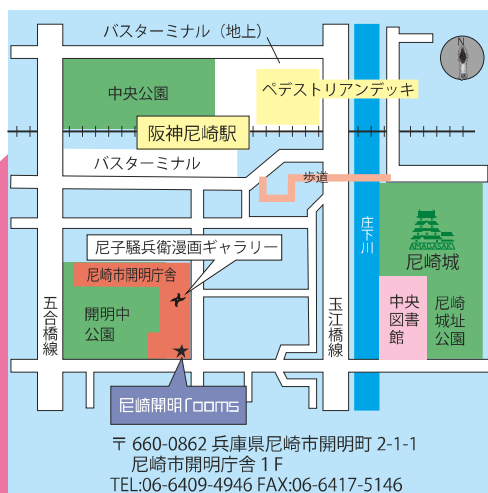


《真夏の雪玉》 Photo: 中川達彦



《桃園双六》 Photo: Toisland Project.
提供：桃園児童美術館

尼崎開明rooms (尼崎市開明庁舎内)



電車 ▶ 阪神尼崎駅下車、南へ徒歩3分

バス ▶ JR 尼崎駅(南)から阪神バス23番、JR尼崎駅(北)から阪神バス11番。

いずれも「阪神尼崎」行き

▶ 阪急「塚口」駅から阪神バス13番か阪急バス「阪神尼崎」行き

開明roomsは、あまがさき観光局が運営しているアートスペースです。かつての尼崎市立開明小学校であった尼崎市開明庁舎にあり、歴史ある建物は国の登録文化財にもなっています。元小学校であったことから、▷尼崎ゆかりのアーティスト▷子ども▷遊び▷思い出▷現代アートをテーマに展覧会を展開していきます。施設内にある「尼子騷兵衛漫画ギャラリー」と共に、新たな文化発信拠点として、いろいろな人が集まり、賑わいを作り出す場を目指しています。